



Lord, I believe;
help you my unbelief.
Mark 9:24

【人生の無力を感じる時】

チヨナムチヨル
説教: 鄭南哲牧師

マルコの福音書9章14-29節/暗唱聖句:ヘブル人への手紙11章16節

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！愛する教会の信仰の家族みなさん！猛烈な残暑が続いた一週間もみんなお元気でしたか。もう早く秋が来て欲しいですね。始まった今週中にもキリストイエスにある恵みと平安が益々豊かにありますように心からお祈り申し上げます。アーメン！

<聖書本文>

今年も後約3カ月あまりしか残ってないですね。あっという間に今年も過ぎ去ろうとしています。今年もここまでみなさん、よくよく、背一杯頑張ってきたと信じます。しかし、疲れてはいませんか。特に、自身の無力を感じていらっしゃる方々はいないでしょうか。今年もここまで、自分なりに背一杯頑張っても、変えない、変わらない、解決できない人生の諸問題に直面すると、人は無力を感じ、無気力に陥ってしまうのではありませんか。一生懸命働き、努力しても、人には限界があり、人生の物事が思うままにうまくいかない時がしばしばあります。体の弱さや病の問題、死を直面したり、人との関係の問題、人生のたまらない心配、むなしさ、孤独や寂しさ、疲れ、悲しみ、失望、恐れ、不安、罪責感、切に願い望んだことがかなえられなかった時など、人が無力を感じてしまう時はいくらでもあるでしょう。

今日の聖書本文17節を見ると、あるお父さんが悪霊に捕らわれ苦しん来た自分の息子連れて来ていました。本文21節に出てその子どもは“幼い時から”悪霊につかれて、原語聖書では“生まれながら”になっています。長年、家族のことで、子どもの為一生懸命子どもの治療と癒しの為に

大変苦しんで、恐れ、不安し続けて今日の本文ではこう書かれています。

17節「口をきけなくする霊につかれた私の息子」、25節「口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊」、18節「その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。」、22節を見ると、「霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。」

我々はここで一生涯のこの家庭は子どものことでどれほど苦しんで来たのかが分かります。

子どもの父親は自分の愛する息子のために何とかして治してあげようとしてあらゆる方法で一生懸命も努力を尽くし、試し続けたと思います。しかし、その息子も、今の状況を変えることが出来ません。そのうちにイエス様と弟子たちのうわさを聞いたでしょう。きっとすでに**マルコの福音書7章26節で、ギリシア人で、シリア・フェニキアの生まれであったあるお母さんがイエス様のことを聞き、やって来てイエスの足もとにひれ伏し、今まで汚れた霊、悪霊につかれていた自分の娘を癒して下さるように懇願した時に、何と癒やされたうわさと聞いたはず**です。それで、その娘を癒して下さったのなら、きっと自分の息子にある悪霊を追い出し、治して下されるという希望を持って来たのではないのでしょうか。今までイエスキリストは、多くの人々が癒されると言ううわさを聞いて、自分の息子の病気も癒していただけないかという最後の望みをいだいて弟子たちに駆けつけたと思われまます。

イエス様の弟子たちは、以前イエス様がなされた姿を見たことを思い出したかも知れませんが。イエス様が悪霊に対し叱って出て行け！と命じれば追い出され、癒やされたことを思い出し、そのようなイエス様のまねをやって見たかも知れませんが。しかし、残されていた9人の弟子たちは一生懸命にやっても息子に捕らわれていた悪霊は追い出されず、何の方法も通じませんでした！その時弟子たちもどれだけ戸惑ったのでしょうか。

ちょうど、その時山から三人の弟子たちと下りて来たイエス様はこの無力と戸惑い、失望の現場に来られます。後で、イエス様がその子どもを癒して下さってから、本文の**28節**で弟子たちはイエス様にそっと近づき、とつても大切な質問をします。「イエスが家に入られると、弟子たちがそっと尋ねた。「**私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか。**」これはつまり、どうして我々が治すことができなかったのでしょうか。どうして我々は何もできなかったのでしょうか。なぜ？どうして？」という意味だったでしょう。

イエス様はこの質問に対して答えを与えて下さいました。要するに二つです。“**信仰がなく**”そして“**信仰が薄(うす)い**”ことでした！イエス様はこの世代に向って信仰のない世代だと言われました。**これはマルコの福音書だけではなく、マタイの福音書とルカの福音書にも記されています。**それほど聖書の記者たちはこの出来事を大切にみたのです。同じ出来事を記録している**マタイの福音書17章19～20節**はこのように語っています。「**19それから、弟子たちはそっとイエスのもとに来て言った。「なぜ私たちには悪霊を追い出せなかったのですか。」20「イエスは言われた。「あなた方の信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移ります。(どんなことでも)あなたがたにできないことは何事ありません。」**

イエス様はこのマタイの福音書の御言葉をとおして、我々も自分や自分の人生に対して無力を感じる時、そこから克服し、変えていくために、3つの大切なポイントを点検するように教えてくださっています。イエスキリストが教えて下さったその3つのポイントで我々自身を点検し、主の御前で自分を振り返って見る時となりますようにお祈り申し上げます！

①イエス様のみもとに問題を下ろす

父親が自分のかわいそうな息子を連れて始めに訪ねていたのはだれでしたか。イエス様の弟子たちでした。今日で言いかえると、牧師や牧者たち、キリスト教専門カウンセラーたちにたずねて来たと言えるでしょうか。イエス様が不在中だったので、代わりに彼らが解決のカギを握っているのではないかと希望をもって、彼らに助けを求めて尋ねて来たように考えられます。

しかし、結果的に彼らは根本的な問題解決を与えてくれなかったことが分かります。もちろん、誤解しないで下さい。教会や牧師が何も役に立たず、助けにならないということを言う意味ではまったくありません。**ただ、ある職務をもっている人に尋ねたという事実だけでは究極的な助けと変化にならない可能性が多い**ということを行っているのです。

ところが、みなさん! 今日の本文に出てくる父親は大事な姿勢が見られます。それは何でしょうか。

彼はすぐさま自分たちが願っていた時に、息子が治らず問題が解決されなかった状況においても、**あきらめず、続けてその場から離れないで、イエスキリストと出会うまでその場で待ち続けていたこと**です。

そして、ついにイエス様がこの出来事に介入される場面を我々は見ることができます。

ですから、みなさん! 結局牧師や伝道師、牧者たちなど、つまり神様の働きをする人は何をしますか。

たえず、イエス様に導く人です。教会や祈りや学び、相談などは案内表示板のような役割をしていると言えます。表示板自体は目的地ではないでしょう。表示板に東京という文字と矢印があるというそれ自体が東京ではないのと同じです。東京に行くようにと方向を教え、案内してあげることではありませんか。同じように、**牧会者は人々を、信徒たちをイエスキリストに導き、キリストに向うように、キリストと出会うように、キリストを實際体験するように、たえず教え、助け、仕え、導く人**であるのです。

教会はどんなところですか。教会のかしらなるイエスキリストを表わします。

牧師の説教や、クリスチャンカウンセリングや学びがひたすらしているのは誰ですか。**イエス・キリスト**です。

ある有能な牧師に出会い、カウンセラーに会ったと言え、すべての人が全部変わる事ではなりません。

今もなお、生きておられ、我らとともにおられるインマヌエルのイエスキリストのみもとに一人、一人が出て来て、出会い、頼り、御手に委ねる時こそ、究極的な問題が解決され、変わり始めます!

本文に出ている戸惑う弟子たちの姿、そして自分の息子を抱いている父親の哀れな姿を考えて見て下さい。

おそらく父親は、イエス様の弟子たちに、イエス様のようなわざがおこされることを期待していたかもしれません。

弟子たちも以前隣で、近くで、イエス様がなされた姿、行動の形のまねを何度もやって見たけれども、結局悪霊は追い出されず、父親の期待には応じませんでした。

彼らは結局イエスに会う時まで待つしかありませんでした。

ついに、イエス様は弟子たちのいるところに戻って来られ、状況説明を聞いたイエス様はどう言われますか。

19節に、「その子をわたしのところに連れて来なさい。」

悪霊につかれた子どもは、イエス様の前に連れて来ました。イエス様の御前に来た時、ようやくすべてが変わり始めました。我々は教会を通して、牧師を通して、聖書の学びを通して、身につけられるべきことがあれば、それは信仰の形やだれかの人ではなく、**イエス様と出会うべき、そのイエス様に向うこと**です。そのとき、我々も変えられ、回復とまことの癒しを経験することができるのです。キリスト教に対するうわべだけの信仰の形だけでみなさんの人生が変えられるとあまくみないでください。それだけではいけません。

本日礼拝をささげる我らの中にも**“ただいつものように礼拝の形に従って、教会堂に座って“ただ礼拝をする方もいれば、“神様の御前で”心から礼拝を捧げる人がいます**。みなさんは今どちらの方ですか。この9月の日々生きておられ、ともにおられるイエスキリストのみもとに出て、イエスキリストと交わり、キリストに根ざし、イエス様のみに頼り、キリストとともに歩める日々と信仰生活となりますように切にお祈り申し上げます。

②イエスキリストの御力を絶対信じる信仰を握る

本文の**22節**に、悪しきの霊につかれていた子どもの父親はイエス様に何と言いながら助けをもとめていますか。

「霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。しかし、おできになるなら、私たちをあわれんでお助けください。」

これに対するイエス様の答えはもっと興味深いです。**「できるなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」(23節) “できるなら”**ということばがイエス様の気にさわられたようです。

その**父親の確信のない半信半疑(はんしんはんぎ)の心の状態から出る言葉**は厳密に言わせると、イエス様の御力を信じて助けを求めている言葉ではありません。ほぼあきらめている状態で、出来れば良いし、出来なれば仕方ないですが、最後に言い投げてみる要請に過ぎません。“あなたの弟子たちがみな失敗したのであれば、イエスさまも、しかたなくできないのではないかと思います、でももし弟子たちと違って出来そうでしたら、どうか哀れんで助けてくださいませんか”という心境だったでしょう。

半信半疑的なその言葉に、イエス様は、「**できるなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。**」(23節)とイエス様は厳しく言われました！なぜでしょうか。イエス様は、この家庭の問題！このお父さんが苦しんでいる根本的な問題が何かすぐ見抜いておられたからです！**悪霊にとらわれているのが、根本的な問題ではなく、生きておられる神の御子の御力を心から信じず、今まで彼の人生と家庭が苦しんで来た原因であることをご存じあり、だから、息子の悪霊を追い出す前に、まず、お父さんの信仰の姿勢を直して下さったことが分かります！**

それに、この父親はイエスキリストの御前で、素直に、信仰告白がすぐさま変わります。24節です。「すると**すぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けてください。」**」

この姿こそが神の御子の前で、正直で相応しい姿ではありませんか。

“主よ。もう絶望的です。イエス様が癒して下さるのか本当に確信がありません。とても信じがたいこんなわたくしですが、しかし、これからは心からあなたとあなたの御力を信じますから、どうか私のこんな不信仰を赦し、助けて、強め私も、私の息子もどうか救ってください。”

イエス様に言われてようやく子どもの父親は、今自分の不信仰な状態であることを正直に認めながら、イエス様に助けを求めている姿を見ることが出来ます。

同じ出来事を扱っている**マタイの福音書17章20節**ではイエス様が弟子たちになんと言われましたか。弟子たちが子どもを直せなかった理由についてイエス様は「**あなたがたの信仰が薄いからだ。**」と言われました。弟子たちには**信仰が薄い**と言われました。イエス様は一般的に当時、その世代を“不信仰ないまの世だ。”と指摘されました。そしてその父親の心の奥底にある不信仰を見抜かれました。それにもかかわらず弟子たちには“あなたがたは不信仰だ”とは言わず、ただ**“信仰が薄い”**と言われました。

愛する信仰の家族のみなさん！ **弟子たちは決して信仰がない人々ではありません。**

しかし、**以前は信仰が強かったのに、深かったのに、弱くなったり、薄くなってしまいう時もあることをイエス様は教えて下さっています！**

ある時はちゃんと信じたのに、ある時には信じなかったかもしれません。ある時は信仰によって働きますが、ある時は信仰を後回しにして自身の力と勢いで働いた時もあるでしょう。イエス様は、弟子たちに対して、**信仰が薄い**と言われました。**これはつまり、今、この問題に対して神様にゆだね切っていない事**です。自分の信仰を使っていないことです。神様を完全に信頼しきれない時、それは神様の御力を制限してしまうことです。

神様を100%信頼できず、頼れない時、それは神様の御力を制限してしまう結果を招いてしまいます。

我々の弱い信仰がイエス様の御力を制限してしまいます。みなさん！信仰は成長し、信仰は動き、信仰は生きています。

イエス様が病に患っている人々を癒すたびによく使われたお言葉は何でしたか。

“あなたの信仰のとおりになれ。”でした。

私はこの御言葉が真理だと信じます。わずかな信仰はわずかな結果をもたらすでしょう。大きな信仰は偉大な結果をもたらすと信じます。我々が信じる偉大な神様を小さな神様につくらないように気をつけましょう。

どこにもおられ、すべてを御存知であり、不可能なことは何一つない父なる神様、救い主イエスキリストがみなさんの人生の数々の難関の諸問題の中無力を感じる我らを、乗り越えさせ、回復させて、必ず神様の栄光をあらわす存在として用いて下される偉大な神様の御力を信じましょう。

③信じて祈ることを体験する

本文の**28節**をみてください。弟子たちはイエス様に聞きました。「イエスが家に入られると、弟子たちがそっと尋ねた。**「私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか。」**」

これにイエス様はこのように答えます。

29節「すると、イエスは言われた。「この種のものは、祈りによらなければ、何によっても追い出すことができません。」

マタイの福音書では“信仰が薄いから”だと答えられましたが、**マルコの福音書では“祈らないから”**だと言われました。

結局は同じ話です。**我々が信仰が弱くなり、薄くなり理由に、今日の本文は祈らないからだ**と教えています。

祈りの生活がみだれて来るとき、祈りの力を失ってしまうとき、神様に対する信頼は自然に揺るがされ、信仰も弱くなってくるのは当然です。

すると**祈りとはなんですか**。一言で言うと、**祈りは神様と新皆関係を保つ時(会話・交わり)であり、神に頼り委ねることが祈り**でしょう。ですから、祈らないというのは、神に頼らず、委ねずに自身の力で、頭で生活しているので、当然信仰が弱くなるしかありません。

イエス様の弟子たちが無力を感じ、神の力を体験出来なかった理由は、**今のイエス様との信仰の関係にありました。**

自分たちの経験した過去の経験や自身の力ではなく、イエスキリストの御名によって、残されていた弟子たち9人が共に、この病人をために信じて祈ったならば、どんな結果になったのでしょうか。

きっとイエス様がなされた神の癒しの御業を体験出来たはずでしょう。

彼らは一番大事なイエスキリストと一緒にいらっしゃらなくても、御名を信じて祈ることを忘れていたのです！！

愛するみなさん!祈りは何ですか。自分の限界を認め、自分には力がなく、神様の力を信じて頼り、委ねることです！
神の助けを頂ける近道であります。神と日々交われる、神への絶対信じる信仰の表しが祈りなのです！

祈ることこそが神様に対する絶対信仰の表現であり、告白であることを忘れないでください。

新しく始まった今週の生活の中、さらに絶対信仰をもって祈りの力を信じ、イエス様に直接人生の様々な問題や悩みを持って、とことんまで祈って行きましょう。必ず生きておられるインマヌエル主イエスキリストが我らの祈りに答えを、主の素晴らしい御業を体験させて下さると信じます！

神を信じ、御子イエスキリストを信じるなら、聖霊に頼りて、日々、どんな時にも、祈り続け、祈りの答えを通して実際神の御力をこれからさらに毎日体験していく恵みの一年となりますようにお祈り申し上げます。アーメン!!